



つじの しんいち
辻野 眞一

担当 就労移行支援事業所
アスミル大田原



私が、大学の体育会弓道部に所属していたのは40年以上前になります。大学4年間でしかできないものをやろうと思い「やるからには途中で投げ出さない」ことだけを決めて入部しました。ところが入部早々、先輩後輩の上下関係や正座がきついこと、腕立て腹筋、10kmランニングなど過酷なトレーニングの日々に早くも辞めてしまいました。当時入部した同期は20名。1年生の夏合宿に来たのはたったの4名でした。今思えば4年間辛かったことしか思い出されません。中でも一番きつかったのは、スランプでの中率が下がったときに、OBのコーチから「的に謝って来い」といわれたの前に土下座し声を出して「当たらなくてどうもすみません」と皆の前で言う場面です。とにかく悔しくて実際には声にならない声でした。的に動きません。的に完全です。動いているのは自分の身体と心。すべての責任は自分にあります。言い訳は一切通用しません。そんな自分も卒業までに四段を取得することができました。なにより四年間やり遂げたことが自分の中では自信につながっています。弓道は座禅に対して「立禅」とも呼ばれ非常に哲学的側面を持っています。特にほかのスポーツや武道との違いは、どこまでいっても基本しかないということです。つまり応用技がありません。相手の出方によって自分の在り方が変化するほかのスポーツとの大きな違いはそこになります。話が長くなりました。興味を持たれた方はお気軽にお声をかけてください。いろいろ面白い話がありますよ。